

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	リブレイン		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 5日		2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 5日		2026年 2月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	週に1回支援会議を設けているが支援会議以外の場でもお子様の支援についてやその日の様子など子どもを「主語」に会話が飛び交っている。	「子どもを主語」「即時即応」という理念方針が全職員に浸透するように日頃から、理念を忘れないよう言葉に出している。	現在している内容を継続すること。理念方針を継続することで多くの意見、支援内容の検討を深めていきたい。
2	お子様に合わせてパソコンを使用したり、配置の構造化ができる環境にある。	療育活動やリハビリ訓練に集中して取り組めることができるように、個々に合わせてアセスメントをし、配置の検討を行っている。	固定概念にとらわれず、お子様の成長に合わせて配置や環境の検討をし再度アセスメントをしていく。
3	看護師、作業療法士、保育士など多職種連携をし、多角的にお子様への支援内容の検討をしている。 また、専門的なリハビリ訓練も実施している。	職種にとらわれず全職員が意見をしやすいように日頃からお子様についての会話を多くしている。	専門職の専門性を深め質の高い支援が提供できるように、事業所内だけでなく外部への研修等にも参加し、研修内容の伝達会議を実施を継続していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域活動など移動時間のかかる外出頻度は少ない。	肢体不自由児や医療的ケアが必要なお子様がもいる為、安全性を保つことが難しい。	専門職を筆頭に介助の方法など職員に伝達し、職員のスキルアップを図っていく。
2			
3			